

ニュースレター雪氷北信越

No.68 1999年8月10日
(社)日本雪氷学会北信越支部発行

目次

<案内>

・富山地区学習会

地球の温暖化におけるこれからの雪氷学を考える (9/6)

酸性雪のミクロの構造 (9/21)

・新刊紹介『天から送られた手紙』

<報告>

・第5回雪形ウォッチング

<その他>

・「雪氷北信越ニュースレターNo.67」名簿訂正

<案内>

富山地区学習会のお知らせ

話題：地球の温暖化におけるこれからの雪氷学を考える

講師：中村 勉 岩手大学農学部教授

日時：平成11年9月6日（月） 18:00～19:30

場所：富山大学理学部2号館

備考：終了後、懇親会を予定しています。

問い合わせ先 富山大学理学部 對馬勝年

TEL.076-445-6646、FAX.076-445-6549

富山市科学文化センター 石坂雅昭

TEL.076-491-2123、FAX.076-421-5950

話題：酸性雪のミクロの構造

講師：伏見碩二 滋賀県立大学教授

日時：平成11年9月21日（火） 18:00～19:30

場所：富山大学理学部2号館

問い合わせ先 富山大学理学部 川田邦夫

TEL.076-445-6648、FAX.076-445-6549

富山市科学文化センター 石坂雅昭

TEL.076-491-2123、FAX.076-421-5950

＜案内＞

新刊ニュース

『天から送られた手紙』〔写真集 雪の結晶〕

写真 吉田六郎／解説・編集 中谷宇吉郎雪の科学館 神田健三／発行(財)加賀地域振興事業団／A4
変形／48ページ／定価1200円(送料160円)

ブルーを背景に雪の結晶が輝く独特の撮影方法を開発した吉田六郎氏（1919～1995）の完成度の高い写真を、1ページ1点で大きく扱った写真集です。中谷宇吉郎の有名な言葉「雪は天から送られた手紙である」の観点から、これらの写真を「手紙」として読む、という基本的な考えで編集しました。そのため、宇吉郎の研究をたどり、手紙を読む字引にあたる「ナカヤダイヤグラム」を最初に説明しています。

解説や写真選定では、吉田氏が強くひかれたという気泡の問題や、結晶の「表と裏」という視点など、新しい話題もいくつかとり入れ、又、開いたページの左右2枚の写真を比較することによって何かが見えてくるように留意しました。宇吉郎による結晶写真や分類図も豊富で、ハンドブックとしても役立つと考えられます。

なお、来年は中谷宇吉郎の生誕百年という節目の年にあたるので、館と加賀市はいくつかの記念事業を企画しており、その一つに今秋から始まる「雪のデザイン賞」の全国公募があります。その詳しい内容はもうすぐ発表の予定ですが、この写真集は、雪のデザインに取り組む人にも活用していただけるように、雪のデザインの紹介もしてあります。

この写真集が、自然の美と不思議、そして、科学の面白さを一人でも多くの人が感じていただくきっかけになれば嬉しい、と考えています。

雪の科学館の受付で販売し、ご希望の方には郵送も致します（送料160円）。送金には郵便小為替を利用して下さっても結構です。

申込み・問い合わせ先

〒922-0411 石川県加賀市潮津町イ-106 中谷宇吉郎雪の科学館

電話：0761-75-3323、ファックス：0761-75-8088

（雪の科学館 神田健三）

＜報告＞

第5回雪形ウォッチング

1999年5月22、23日の両日、第5回雪形ウォッチングが鳥海山・月山の雪形を対象に山形県庄内地方で開催された。参加者は過去最高の48名（4ヶ国）であった。この雪形ウォッチングは国際雪形研究会が主催し、北信越支部の見学会も兼ねて実施された。以下に、雪形ウォッチング初参加の西川大輔さん（北大低温研）の報告を掲載させていただく。

（河島克久幹事 記）

5月22日、札幌から飛行機で山形空港へ飛ぶ。この日は快晴で、岩木山、八甲田山、白神山地、岩手山、八幡平、秋田駒など、東北の代表的な山はほとんど見る事が出来た。そして神室の山々、月山朝日連峰、豊富な残雪を残して一際高くそびえる鳥海山などが手にとるように見えた。高い山のところだけ残雪が残っていて新緑とのコントラストが美しく、いかにも雪形シーズン到来という感じである。いつもと違って空から見る山に魅せられて、ご機嫌な状態で山形空港に降り立った。

山形から鶴岡までは、バスで月山の麓の峠を越えていく。車窓から見るブナ林の鮮やかな黄緑色と、スキー道をガンガン掻き立ててくる月山の真っ白な残雪が印象的だった。

鶴岡の郊外から月山、続いて鳥海山の雪形ウォッチング。月山では残念ながら資料にある雪形は見られなかった。今回はなんとか、猫の顔を認識することが出来た。鳥海山では、みんなスキーヤーだとか、旅人だとか、帆掛け舟だとか、お化けだとか、お神酒とかいろいろ言っている。なるほど、こうやってあれこれみんなで、山の残雪を眺めてあれこれ言い合うことこそが、雪形の最大の楽しみ方なのだろう。

宿に向かう途中、今度は本物の？スキーヤーが現れる。スノーボーダーとそれを狙っている熊も見えた。こうやってあれこれ見えてくると楽しくなってくるもんだ。

夜の座談会では、雪形心理療法というのがどういうことなのかの謎が解けた。いろいろな雪形の写真が出てきたが、やっぱり、カムチャッカの雪形「ロシア人の少女」(松元高峰氏発見)が心に残った。他にはどうしてそう見えるの？とか、そうやって見るのは苦し過ぎるよ、と思う雪形も中にはあった…。でも、そうやって人によって見えたり見えなかったりして、見えるものが違ってくるから、そして、それがその人の心の表れであるから雪形は面白いのだろう。翌日から、山はもちろん、山の写真やポスターを見かけるとついつい雪形を探してしまう立派な雪形マニアになってしまっていた。

恋人同士が星空を見上げながら語り合うように、女の子と雪形を語り合えたらなーと思う今日この頃である。

<その他>

雪氷北信越ニューズレターNo.67 役員名簿の訂正

顧問

- ・誤：津端一郎 長岡短期大学教授
- 正：津端一郎 長岡技術科学大学名誉教授

評議員

- ・誤：永井紘一 上越市都市整備部長
- 正：中島 久 上越市道路課長
- ・誤：品田正樹 柏崎市企画政策課長
- 正：品田正樹 柏崎市企画部企画政策課長
- ・誤：関口 恒 野沢温泉村企業課長
- 正：河野勇治 野沢温泉村企業課長
- ・誤：藤野 徹 北陸道路エンジニア(株)技術管理部長
- 正：本江裕之 (株)クエストエンジニア技術管理部長

理事

- ・誤：杉森正義 福井県雪対策・建設技術研究所総括研究員
- 正：杉森正義 福井県雪対策・建設技術研究所次長
- ・誤：武藤克己 新潟県企画調整部雪対策室長
- 正：武藤克己 新潟県企画調整部地域対策課雪対策室長
- ・誤：早川典生 長岡技術科学大学建設系教授
- 正：早川典生 長岡技術科学大学環境・建設系教授
- ・誤：村山 實 新潟産業大学教授
- 正：村山 實 新潟産業大学経済学部教授
- ・誤：豊岡昭博 JR東日本新潟支社設備部担当課長
- 正：豊岡昭博 東日本旅客鉄道(株)新潟支社設備部担当課長
- ・誤：湯本喜久雄 ソーラーシステム(株)社長
- 正：湯本喜久雄 ソーラーシステム(株)代表取締役
- ・誤：柳原雅行 北陸電力(株)地域総合研究所技術研究担当課長
- 正：柳原雅行 北陸電力(株)地域総合研究所副所長
- ・須田公男 佐藤工業(株)北陸支店次長 → 退任

監事

- ・誤：丸山敏介 新潟電機(株)社長
- 正：丸山敏介 新潟電機(株)代表取締役

幹事

- ・誤：飯田 肇 富山県土木部砂防課
- 正：飯田 肇 (財)立山カルデラ砂防博物館
- ・誤：伊藤文雄 福井大学教育学部
- 正：伊藤文雄 福井大学教育地域科学部
- ・誤：上石 勲 (株)アルゴス
- 正：上石 勲 (株)アルゴス 雪氷技術センター
- ・誤：河島克久 (財)鉄道総合技術研究所
- 正：河島克久 (財)鉄道総合技術研究所 塩沢雪害防止実験所
- ・誤：鈴木啓助 信州大学理学部
- 正：鈴木啓助 信州大学理学部物質循環学教室
- ・誤：竹井 巖 北陸大学
- 正：竹井 巖 北陸大学薬学部
- ・誤：藤井秀幸 長岡技術科学大学建設系
- 正：藤井秀幸 長岡技術科学大学環境・建設系
- 追加：石田孝司 建設省土木研究所 新潟試験所
- 追加：川田邦夫 富山大学理学部

※なお、次号のニューズレターは1999年10月10日発行予定です。こちらの原稿は9月20日頃までにお送り下さい。

日本雪氷学会北信越支部ニューズレター

原稿送付・問い合わせ先：小南靖弘，横山宏太郎

〒943-0193 新潟県上越市稲田1-2-1 北陸農業試験場 水田利用部 気象資源研究室
tel.: 0255-26-3234 / Fax: 0255-24-8578 / E-Mail: met@inada.affrc.go.jp

